

	公表	事業所における自己評価結果	
--	----	---------------	--

事業所名						公表日 年 月 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	0	0		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	0	0		インフルエンザやコロナに罹患した職員が出た場合には一時的に余剰の職員が必要になる。他教室の連携を図る計画です。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	0	0	個別指導に相応しい小部屋が欲しい。	玄関に段差があるのとやや幅が狭いためバリアフリーとしては完全とは言えません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	0	0	特に幼児向けの専用のトイレの準備がない。	6歳未満の利用者に対する専用の便房がない取り敢えず、現状で間に合わせてきなりようをしている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	0	0	専用の個別指導室はないが、仕切りを設け補別に対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	0	0	支援記録が個別支援計画に基づき、日々の支援内容と連動した内容となるよう努めています。	繰り返し徹底化を進めていく必要があります。記録の質の均質化と具体性のさらなる向上を課題としています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	0	0	保護者の意向を大切に、ご意見を伺った場合には打合せ等で検討しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	0	0	5領域との関連性を意識した記録様式の活用および定期的な記録点の実施を徹底したいと思います。	支援の振り返りや改善に活かせる記録体制の強化を図る。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	0	第三者による外部評価は受けていませんが、自己評価などこうした機会に職員全員参加による見直しを実施しています。	適当な機関や人材がいれば第三者委員を設置する方向では検討しています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	0	0	県主催及びご紹介された研修には文相の代表を参加させ、その後伝達研修を実施しました。	研修の機会は設けているもののプラザル人が多いため、ことばや文化的な背景の違いからどこまで理解ができていてはいるか確認ではない。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	0	0	支援プログラムが適切か否かについては自信はありませんが作成と公表は行っています。	適切な支援プログラムを目指し、宮尾氏や検討の機会を設けています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	0	0	アセスメントシートを導入し同一水準のアセスメントに心掛けるようにしています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	個別支援計画を作成する段階では児童発達管理責任者が原案を制作し、その後事業所内で全員で検討化を開き共通理解を図っています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	計画書作成段階で全職員が関わる機会を設け、活動後は支援記録として記録を残しています。	記録を検討する機会がないため年度からは検討の機会を設けたいと思っています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2	標準化されたアセスメントシートにより評価を行っています。	今年度途中から試みたもののため、見直し改善を図りながらアセスメントの意味を深めていきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	2	必要な支援を個別支援計画にも反映しています。	地域支援は地域との繋がりを意識する内容として人や地域との連携を意識しているものの具体的な連携はなかなか実のあるものとなり難い。具体的な方法を今後は検討したり、見直し必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	法人組織として療育専門部会を設け、研修内容としてプログラムの検討を行っています。	各教室内でも担当を分けたり、責任者を設けたりして工夫している。今後見直しや検討が必要と考えています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	担当する職員を交代制にしたり、プログラム内容で全職員で検討する機会を設けることで固定化やマンネリ化を避けるよう心掛けています。	療育活動終了後、記録をとり見直しの木かとしています。今後も継続実施したいと考えています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	一日の療育内容を個別支援活動と集団支援活動に分け、日々内容の確認や担当者を決め、支援に当たっています。	実施していますが、集団療育プログラムの記録が確実でなかった。今後は十分注意し記録をとることや見直しの徹底を図りたいと思います。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	2	朝の打ち合わせの時間を設け、支援内容、担当者、役割、記録をとることに心掛けています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	児童指導員や担当職員は必ず記録を残し、pc上で活動のようすや活動内容を確認するよう心掛けている。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1	記録はほぼ全員残すよう心掛けている。	支援の検証及び改善についての取り組みは、特に指摘や課題等がない場合には取組んでいない。今後は積極的に取組む機会を設けたいと思います。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	2	個別支援計画を作成する際にはモニタリングを行なうと共に計画と理念を結びつけることで適切な支援になるよう見直しを行っている。	外国籍の支援ができないため、モニタリングにも限界を感じることがあります。ただ、今後は見直しを回り、ことばを超えて全員で支える方向を検討して行きたいと考えています。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	特に、支援者も利用者もブラジル人がほとんどを占めるため、子どもの事を語るには直接の指導者を書くことはできない状況です。	
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	0	6	必要に応じ保育所等訪問指導の機会を設け、関係機関との間で連携した支援が執れるよう心掛けています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	ブラジル国籍の児童が多い地域であることから保育園や学校でもインクルーシブな支援を前提に活動が組まれています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	必要に応じ特別に情報交換や資料による実態を伝える機会を設けています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)			列1	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	4	2		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3	3	県や他の専門機関から研修案内を頂いた場合に紹介しています。参加は本人の意志や都合に任せています。	参加する機会は少ないと思います。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	4	案内は特に頂いていないように思います。	参加の機会がある場合には参加したいと思います。
	31	(31は、事業所のみ回答)	0			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		6		相談あるいは訪問しながら検討したいと思います。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	多くの利用者は保育園等に通園しています。	
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	0	6	基本的にはすべての利用者を対象に保護者との情報交換が取れるよう心掛けています。仕事のために接触できない保護者もいます。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	活動後や送迎の際を利用して情報交換や相談を受けることがあります。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	2	機会は少ないと思います。	今後は積極的に取り組みの機会を設けるよう心掛けて行きたいと考えています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	1		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	バーベキュー大会、収穫祭、こどもの日、お出かけなど保護者も参加できる機会を設けています。	行事等の参加の機会を設けることで交流の機会としています。今後の継続実施で行きたいと考えています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1	あまり積極的な相談はありませんが、ある場合には誠実に対応することに心掛けてきました。	今後は、定期的に実施できるよう「家族支援」の機会を設けたいと思います。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	ポルトガル語のSNSを発信し行事などの呼びかけを行っています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	2	「個人情報・秘密漏洩に関する誓約書」に署名することを実施することで予防に努めています。	今後も継続に実施するとともに普段から注意喚起を繰り返し実施していきます。
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	0	6	事業所に直接来ていただき、丁寧に分かり易い説明に心掛けています。		
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5		積極的に地域に働きかけることは少ないが町の行事などに積極的に参加しています。	

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	3	各マニュアルを策定し周知しています。ただ日本語での策定のため周知はできていません。	翻訳し周知徹底を図りたいと考えています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	BCP委員会の設置、研修、訓練等は計画的に取り組んでいます。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	利用開始時に保護者から健康やアレルギー、発作の有無については情報の共有に御里欲をお願いし実施しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	家庭からの申告や指示を仰ぎながら対応しています。医師から直接指示を受けたことはありません。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	2	研修、訓練は計画的に進め取り組んでいます。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2	計画に基づく取り組みは行っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	直接経験した「ヒヤリハット」体験の発表や検討会を開くことで自己の未然防止に取り組んできました。	小さなことも見過ごしたり軽視しないことを呼び掛けて行きたいと考えています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	虐待防止委員会の設立、研修、動画視聴、反省等を繰り返し実施してきました。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	1		